

平成22年度 ほくぎん若手研究者助成金 研究実績報告書

氏名	所属・職名		助成金額
旭 雄士	附属病院・助教		400,000 円
研究課題名	ハンガー反射を応用した痙性斜頸の治療の試み		
研究の概要	<p>【背景】針金のハンガーを頭にはめると首が左右に回ってしまう現象がある。これはハンガー反射と名付けられている。われわれは、この現象により痙性斜頸患者の頭部回旋症状が抑制されることを確認した。さらに、ハンガー反射を起こすためのポータブルデバイス(ギブスハンガー;特願 2009-292486)を発明した。【研究の目的】本研究では、我々が開発したギブスハンガーを複数の痙性斜頸患者に臨床的に応用し、症状改善効果を確認する。また、ハンガー反射の基礎的研究として、健常人の発生率を調査する。【研究の方法】ギブスハンガーを、回旋性痙性斜頸の患者に使用し、症状の変化を modified Tsui Score で判定する。最終判定を3か月後とした。ボツリヌス注射をしている場合には、一旦中止とし、内服薬は変更しないこととした。</p> <p>また、健常人 120 名でハンガー反射の発生率を調査した。</p>		
研究の成果	<p>[研究成果について具体的に記入]</p> <p>計 2 名が臨床研究に参加し、1 名で 3 か月、1 名は 2 ヶ月間の評価を行った。</p> <p>1 名で Modified Tsui Score 9 点から 5 点に改善が見られた。</p> <p>1 名では、今のところ変化が見られていない。</p> <p>症例数が少なく、今後、さらに症例を増やし、研究を続ける。</p> <p>また、ハンガー反射の発生率の調査では、健常人の 95.8%でハンガー反射が見られ、多くの健常人で反射が見られることが判明した。</p>		
研究成果発表状況	<p>結果について Lancet に投稿したが、採択されなかったため、British Medical Journal に再投稿予定</p> <p>下記の学会に結果発表予定</p> <p>第 25 回 日本ニューロモデュレーション学会(2011.5)</p> <p>15th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (2011.6)</p>		
経費の執行状況	区分	執行額(円)	備考
	物品費	235,595	
	旅費	45,460	
	謝金	0	
	その他	118,945	
	合計	400,000	